

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102956		
法人名	有限会社 サカイコーポレーション		
事業所名	グループホーム 楓		
所在地	宮崎県宮崎市郡司分甲1570番地1		
自己評価作成日	平成26年7月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail;2013_022_kanistrue&JigyouNoCd=4570102956-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の気持ちや想いを拾い上げ、できるだけ利用者の意に添った介護を、職員全員が心掛けています。

・ゆったりとした雰囲気の中で、一人ひとりの利用者の方々が、本人のペースで生活されている。

・施設内に、嫌な臭いがあまりしない。

・食事もあり3回、ご飯を炊き、おかずも手作りのものを提供している。

・自然に囲まれ、ゆったりとした時間が流れており、利用者と職員が共存している空間が常にある。

・安全面・衛生面の徹底。

・自立支援に従事し、利用者の残存機能の維持向上を目指すとともに、その人らしい生活に配慮した対応・援助を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいたサービスの提供の実践のため、家族的な雰囲気の中で、職員は利用者の思いをかなえようと、臨機応変な対応で利用者へ寄り添い、思いを実現できるよう支援している。利用者は、一人ひとりのペースでゆったりと過ごし、数々の場面で笑顔があふれている。職員会議や内部研修が充実しており、研修を担当制にして職員を育て、支援を共通認識し、職員は、伸び伸びと笑顔で利用者へ接している。地域の夏祭り時に敷地を提供したり、施設長が地区社会福祉協議会に代議員として参加するなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に馴染んだサービスの提供」を、6つの運営理念の1つに掲げ、意識の統一をはかっている。契約書・パンフレット等に記載し、ご家族や地域の方々にも表明している。	施設長と管理者は、理念に沿った支援になるよう指導しており、職員は理念を理解し、実践に取り組んでいる。特に、「安全・安心」に留意し、利用者個々の流れを大切にしたい支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区社会福祉協議会に参加し、地域の方々との交流を積極的に行っている。地域の夏祭りなど、ホームの敷地を子供神輿の休憩所に提供している。散歩時には、挨拶を欠かさないようにしている。	施設長が地区社会福祉協議会の代議員となり、地域とのつながりを更に深めている。夏祭りの時に敷地を提供し、利用者と地域の人との交流を図っている。高齢者が相談に来所するなど、地域の福祉機関としての機能がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや介護実習施設として、認知症の専門知識を広める努力をしている。地域の方からの認知症の相談を、いつでも受け入れる準備がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一度のペースで開催している。困難事例などの相談や行事・ケアについての実施状況を報告している。行事・イベントなどの成功につながった経緯がある。	自治会、家族会、他のグループホーム代表も委員であり、活発な意見交換が行われている。委員がホームの状況を把握し、有意義で具体的な助言や提案が出され、ホームはそれらの意見等を運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	関係機関など、常に挨拶・相談を欠かさないようにしている。不明な事や質問があった場合には、介護保険課に出向き、担当者や情報交換や相談にのっていただき、サービスの向上に役立てている。	施設長や管理者が、市に直接出向き、市の担当者へ相談や質問をしている。積極的に情報交換に努め、連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に、身体拘束についての説明と同意は頂いているが、現在、身体拘束は行っていない。マニュアルの作成、施設内・外の研修会等にも積極的に参加し、身体拘束をしないケアについて理解を深めている。	定期的に内部研修を行い、身体拘束をしないケアについて、職員全員が共有し、認識を深めている。寄り添うケアで、状況を早めに察知し、支援することに努め、利用者の安全が確保できるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつでも職員が、高齢者虐待防止マニュアルを閲覧できるようにしている。内部・外部研修に積極的に参加し、職員全員で意志統一を図り、理解を深めるよう努力している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士や介護福祉士などの有資格者が居るので、いつでも権利擁護について相談に乗れるようにしている。権利擁護マニュアルを作成し、内部研修などで取り上げ、全職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までに、何度も御本人と家族と話を重ね合い、運営方針などを理解して頂き、入所されている。いつでも疑問や質問がある場合には、対応できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会時には、家族同士の交流を行い、顔見知りになって頂き、意見交換がしやすい環境作りに努めている。意見書箱の設置や個別にご家族と担当者会議を行い、意見の反映に努めている。	家族会があり、ホームが家族の意見や要望を聞く場を設けている。出された意見等は、職員で話し合い、早急に前向きに対応している。定期的に家族と話し合う場を設け、利用者や家族の意見・要望を積極的に聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内研修には、必ず運営者が参加し、職員の話に耳を傾け、運営に役立てている。悩み事や提案等を話しやすい環境作りに努めている。	代表者は頻繁にホームを訪れ、職員と交流し、利用者と職員の状況を把握している。また、職場の研修に必ず参加し、職員の意見や提案を聞き、出された提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	余裕を持った職員配置にしている。資格・努力・積極性などを考慮した上で、処遇改善加算を支給している。勤務表作成時には、希望を出来る限り反映できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実習・学生ボランティアなどを積極的に受け入れている。福祉従事者としての心構えなどを伝える事で、職員の資質向上にも繋がっている。研修参加も積極的に取り入れ、OJTも主体とし取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種協議会などに参加し、同業者の方々との交流を深め、情報交換やネットワーク作りに力を入れ、サービスの向上に役立てている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学から利用までに、何度も本人・御家族と話を重ね合い、信頼関係がいち早く築けるよう努力している。利用前に、行事やレクリエーション等に参加して頂き、何度か雰囲気味わって頂く関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に信頼関係を結ぶ為に、ご本人が生活されている所に何度か足を運び、出来るだけ顔見知りの関係が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム見学時などに、御家族の意向や希望内容を確認した上で、ホームの説明を行っている。状況によっては、御家族の希望にあった他の施設サービスを含めて説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を家族の一員のように思い接している。利用者の方々から、昔ながらの習わしや料理の作り方・味付けなどを学び、教え合い、同じ空間を共にすることで、よい信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との絆を大切にし、情報交換をしながら連携を密にとっている。共に支えあう関係作りに努めている。ホームでの生活の中で対応困難な時など、御家族の協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族との電話の取り次ぎなどを行い、安心した生活が送れるよう支援している。面会時は、椅子やお茶を勧めるなど、よりよい雰囲気であるよう支援している。隣人の方が頻りに面会に来られ、喜ばれている。	頻繁に来訪される知人があり、その関係が継続できるようもてなし、声かけをしている。家族が定期的に来訪し、その家族と他の利用者も一緒に折り紙を楽しんでいる。季節の便りなど、家族の協力も得て、個々の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルなどが発生した時には、お互いの人格を傷つけないように配慮している。食事・レクリエーション時など、利用者同士ができるだけ良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方についても面会を行い、入所施設と情報交換を積極的に行っている。アフタフォローをふくめ、これまでの関係性を継続し、御家族に喜ばれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録などを用いて、職員全員で意向の把握に努めている。困難な場合には、職員全員で話し合い、検討し、できるだけ思いや意向を拾い上げられるように努力している。	利用者の言葉や表情を記録することに取り組んでいる。職員は、利用者に寄り添う時間を大切にして、一人ひとりの思いや意向をくみ取り、察することに努め、それを基に、本人本位の支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の御家族との話し合いや診断書・情報提供シートから、生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方などを把握している。日頃から、利用者本人の話に傾聴し、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録で、一日の生活状況が把握しやすいように工夫している。常に、職員同士が密に連絡を図り、利用者の心身の状況を的確に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いや意見、現状などを踏まえたうえで、ケア担当者会議を行っている。全職員で話を重ね合い、介護計画を作成している。担当者が、一人ひとり介護計画に基づき、毎月評価をしている。	定期的に家族の思いや意向を聞く機会を設けている。担当職員が行ったモニタリングを基に、ケア担当者会議で話し合い、職員全員で共通認識を持ち、利用者の現状に即した介護計画を作成(見直し等)している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録を工夫し、十分に役立っている。全職員で情報の共有を図ることで、事故防止などにつながっている。担当者が評価し、ケア担当者会議を行い、全職員で再度評価し、介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の行事、ボランティアの方や実習生などを積極的に受け入れ、楽しみながら社会とつながりが出来るよう支援している。認知症デイサービスを開設し、多機能化に向けて準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員の半数は、地域の方々に働いて頂いている。消防訓練などに各種関係機関や地域消防団に参加して頂き、訓練を行っている。移動図書館や傾聴ボランティアなどを受け入れ、日々の生活の刺激に役立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に御家族と話し合い、今までのかかりつけ医に継続受診されている方もいる。常に、かかりつけ医と情報交換をし、安心した生活を出来るように支援している。	利用者それぞれのかかりつけ医の往診が多々あり、訪問看護ステーションも定期(随時)に訪問し、適切な医療を受ける体制がある。往診、訪問時の記録も整備され、関係者が共有できる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護ステーションと医療連携を結んでいる。職員が不安を感じた時に、いつでも電話にて対応して頂いている。場合によっては、訪問し、適切な助言をもらい、安心して介護に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、医療関係者の方とスムーズな情報交換を行えるよう、挨拶を欠かさないようにしている。入退院時には、必ず職員が面会に行き、医療関係者の方と密に連絡・連携を図り、利用者・御家族が安心して治療できるように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時から、重度化・終末期の対応について家族と方針を共有している。利用者・御家族に当ホームでのケアの限界を説明し、アフターケアも含め、いろいろな情報を共有し、支援している。	利用開始時に、本人、家族と話し合いを持ち、ホームでできる対応について共有している。利用者の状況に応じ、早期に話し合いを持ち、情報提供や関係機関への連絡等に取り組み、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員を配置し、内部研修で定期的に勉強会を行い、意識の向上と理解を深めている。急変時対応マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者兼災害担当職員を配置し、火災・避難訓練、非常災害時避難訓練を計画・実施している。火災避難訓練など、地域の消防団の方々に参加して頂き、実施している。	消防団の協力も得て、定期的に避難訓練を実施している。防火管理者兼災害担当職員が、設備等の点検、整備状況を毎月報告し、職員全員で意識を深めている。職員が、避難場所への避難経路を、徒歩で確認している。	避難訓練に、地域住民の参加、協力が得られるよう、また、利用者と職員と一緒に訓練を繰り返す取組を更に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念の一つに「人格を尊重する介護」を掲げ、職員の意識の向上を図っている。常に人格を尊重することを心掛け、特に排泄・入浴時など、常にプライバシーを確保できるようにしている。	利用者の人格を尊重した支援ができるよう、声かけや対応に配慮している。内部研修で、日々の支援の状況を互いに振り返り、確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り寄り添う環境作りに取り組んでいる。会話の中から、思いや希望をすばやく察知し、利用者が自己決定できるよう、日々努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や運動など、その人が満足するように支援している。食事・入浴時間の調整など、満足して頂けるようにしている。利用者のペースを尊重しながら生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを重視し、日常や外出時などに適切な洋服を着用できるように支援している。定期的に訪問の理容店が来所されるので、本人・御家族の希望を踏まえるようなセットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の雰囲気に合わせてクラシックや歌謡曲などのBGMを流している。食事の準備・調理・片付けなど、個人の能力に合わせて手伝って頂いている。できる限り、自力摂取が出来るよう心掛けている。	職員は、利用者と一緒に準備、調理、片付けをし、利用者が話題にしたり、希望した献立を臨機応変に取り入れ、利用者の得意場面や昔話を引き出し、食を通じた支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い、記録・観察している。利用者ごとに栄養バランスを考え、食事・水分量を考慮しながら提供している。ほぼ全量摂取されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は、必ず歯磨き・うがいを行っている。夜間は、義歯の消毒(ポリデント)を定期的に使用し、口腔内の清潔を心掛けている。歯科医との連携も図り、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録にとり、能力をふまえた上で、季節や状況に応じた気持ちのよい排泄が出来るように支援している。出来る限り、おむつをしない、おむつを外すように努めている。	一人ひとりの状況に応じて、さりげない誘導でトイレでの排せつを支援している。利用開始時にリハビリパンツを使用していた利用者も、時間誘導等で使用しなくなった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維物の多い食物や乳酸菌飲料などを、食事・おやつに取り入れている。記録を活用し、体調観察を行っている。訪問看護ステーションの看護師と連携をはかり、本人にあった心地よい排泄介助に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回程度の目安はあるが、本人の希望を優先できるよう支援している。入浴は、ほぼ毎日行っているため、融通性のある入浴介助を心掛けている。職員とのコミュニケーションの場となり、楽しんで頂いている。	本人の希望や状況に合わせ、いつでも入浴できる体制がある。職員が1対1で見守り、利用者がゆったりとくつろいで、職員との会話をしながら入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週、布団のシーツ交換と天日干しを行い、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。利用者の方の体調と生活習慣などに合わせて、時間をみながら職員が観察し、居室にて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をいつでも確認出来るようにしている。職員が必ず、日付・名前を一人ずつ確認しながら、薬を飲んで頂いている。常に薬剤師と訪問看護ステーションの看護師の方々と連携を図り、服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なことを活かし、生活を支えあっている。特に掃除・洗濯・家事・レクリエーション時など、その人らしさが引き出せるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	御家族にも協力して頂き、散歩・ドライブ・外食・墓参り等の外出支援をお願いしている。季節と利用者の体調・体力に合わせて、ホームの周りを散歩している。グループホームの存在を知って頂くことで、地域の方々からの声掛けなどが増えてきている。	気候や利用者の状況に応じて、近隣を散歩し、地域住民との触れ合いを楽しんでいる。個別の外出は、家族の協力を得て、墓参り、外食、ドライブ等に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族よりおこづかいを預かっている中で、いつでも使えるということを利用者に話をし、理解して頂いている。外出時などに使用したりしている。おこづかい帳を作成し、ご家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しても、御家族の協力を得て、いつでも電話が出来るような体制にしている。御家族からの電話も多く、取り次いでいる。年始の挨拶、その他手紙など、自由に書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	要所にソファなどを配置し、快適な空間作りを心掛けている。カーテン等を使って光などを調整し、居心地のよい空間作りに取り組んでいる。花や装飾品などで季節を感じられるようにしている。	室温やBGM、換気を細かに調節し、陽差しもカーテンで調整するなど、快適な空間になるよう気配りしている。テレビを見たり、職員や利用者同士が会話できるよう、ゆったりとしたスペースがあり、ソファも状況に併せて、配置換えができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の要所に、数種類のソファや椅子を配置し、くつろげる空間作りを心掛けている。一人でいたい時に、いつでも寛げるように工夫している。一人ひとりが居心地のよい居場所を見つけられ、楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族との写真やご自宅で使用していたタンスなどを持ち込まれている。出来るだけ、馴染みのものを持ってきて頂けるように話をしている。大半の時間を過ごされるリビングで、居心地のよい空間作りに力を入れている	利用者が使い慣れたたんすや思いのある写真を持ち込み、居心地良く生活できるよう、家族に協力を依頼するなど支援している。換気や陽差しに気配りし、窓の開閉、カーテン等にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の残存機能に合わせ、補助器具などを使用して、安心・安全な生活が出来るように支援している。トイレ・お風呂などわかりやすくしている。		